

さすらい
流浪の詩

歌・詞・曲：中島みゆき

A E F#m A
※さあママ 街を出ようよ 激しい雨の 夜だけど
A E F#m A
支度は 何もないから 裸足でドアを 開けるだけ
D A E7 A
形見になるようなものを 拾うのは およし
D A E7 A
次の街では そんなものは ただ 邪魔になるだけ

A E F#m A
いつも こうなることぐらい わかりきってる ものだから
A E F#m A
必ず街で一番 暗い酒場で ママは待つ
D A E7 A
こんどは西へ 行こうか それとも南
D A E7 A
愚痴は 後から 聞いてあげるから 今は 泣かないで

A A D A
東の風が吹く頃 長距離バスが乗せて来た
A A E7
あの人の黄色いジャケット
A A D A
それから先は お決まり通りに家を飛び出した
A E7 A
遠い遠い昔のこと

A E F#m A
何度も 人違いをしたわ あの人には めぐり逢えず
A E F#m A
旅から旅をゆく間に 顔も忘れてしまった
D A E7 A
それでも 旅を忘れて 悲しみを捨てて
D A E7 A
ひとつ 静かに暮らしてみるには 悪くなりすぎた

A E F#m A
いつか東風の夜は あたしの歌を聴くだろう
A E F#m A
死んでも 旅を続ける 女の歌を聴くだろう
D A E7 A
片手に ママと名付けた 黒猫を抱いて
D A E7 A
暗い夜道で 風を呼んでいる 声を聴くだろう
A A D A
☆東の風はいつでも 長距離バスを乗せて来る
A A E7
あの人の黄色いジャケット
A A D A
それから先は お決まり通りに家を飛び出した
A E7 A
遠い遠い昔のこと

※繰り返し
☆繰り返し

D A E7 A
風は東風 心のままに いつか
D A E7 A
飛んで飛ばされて 砕け散るまで だから
D A E7 A
風は東風 心のままに いつか
D A E7 A ↓ E7 ↓ A ↓
飛んで飛ばされて 砕け散るまで